

実際の避難行動を考慮した地域オリジナルの洪水対応の取組

～まるごとまちごとハザードマップの展開！！～

1. 経緯／概要

- 山形河川国道事務所では、近年全国各地で発生している大規模な水害を考慮し、命を守る行動を実践する施策の一つとして『まるごとまちごとハザードマップ』の取組を行っています。
 - 『まるごとまちごとハザードマップ』とは、市町などで作成される洪水ハザードマップの情報をまちなかに標示することで、地域の防災意識を高め、いざというときの安全かつスムーズな避難につながるものです。
 - 主なポイント
 - 平成27年5月の水防法改正に伴い、河川整備の将来目標とする『計画規模』の降雨が『想定し得る最大規模』の降雨に洪水浸水想定区域の見直しに伴い実施。
 - 実際の避難行動にあわせて自治会単位での取組。
 - 自らが看板設置等を通して我がこととして対応出来ること。
- 【場 所】 長井市館町自治公民館
【参加機関】 長井市館町南地区会、長井市館町北地区会、長井市、山形河川国道事務所 30名

2. 検討会の様子

第1回検討会 (H30. 10. 12)

- ・ 危険箇所、防災活動に約立つ施設の確認
- ・ 避難する際の指標となるものの確認
- ・ 手助けが必要な方等の洗い出し
- ・ 避難ルートを机上で想定



地区会による検討、危険箇所等の書出し

第2回検討会 (H30. 11. 11)

- ・ 避難場所、避難指標の想定
- ・ 避難ルート、案内看板設置を机上で想定



避難ルート危険箇所の確認 現地想定箇所の書出し

第4回検討会 (H31. 1. 19)

- ・ 現地看板設置、ご近所マップお披露目



現地案内看板の設置状況

検討会は4回実施。地区オリジナルマップを作成し
地域防災意識の向上を図りました。